

著書、学術論文等の名称		単著 共著	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等の名称	概 要
1	(総説) ハイドロキシアパタイトを用いた口腔内細菌の遺伝子検査	単	2025 年 11 月	BioClinica, 14, pp137-140	ハイドロキシアパタイトを用いた DNA の抽出と LAMP 法を組み合わせることによって、簡単に遺伝子検出できることを報告した。 (長嶺憲太郎)
2	(学術論文) LAMP 法による唾液中 Aggregatibacter actinomycetemcomitans 簡易検出法の確立	共	2025 年 3 月	日本口腔検査学会雑誌, 17, pp3-9	タブレット型培地を用いて採取唾液を培養後、LAMP 法を用いて A. a の検出を行なった。また、DNA を鋳型として A. a 検出の感度、特異度を検討した。 (北川雅恵, 長嶺憲太郎ら)
3	(学術論文) RasGRP2 attenuates TAGE modification of eNOS in vascular endothelial cells	共	2025 年 3 月	Biol. Pharm. Bull., 48, pp. 262-266	RasGRP2 はグリセルアルデヒド由来の TAGE 生成、特に eNOS の TAGE 化を抑制し、細胞の生存能を亢進させる働きがあることを示した。 (宮崎翔平, 長嶺憲太郎ら)
4	(特許) 細菌の培養方法及び検出方法	単	2025 年 2 月	特許第 7641624 号	液体試料中の細菌を培養する方法であって、試料中に通性嫌気性細菌が存在すればそれを増殖させることができる培養方法を開発した。(長嶺憲太郎)
5	(特許出願) 核酸回収材及び核酸増幅方法	単	2024 年 11 月	特願 2024-196211	試料中の核酸を簡便に回収することができる扱い易い核酸回収材、及び試料中の核酸を簡便に増幅することができる方法を開発した。 (長嶺憲太郎)
6	(総説) 末梢血 microRNA を用いたアルツハイマー型認知症早期検査法および発症予防法の検討	共	2024 年 7 月	Precision Medicine, 7, 55(653)-59(657)	miR10b の低発現維持は内皮細胞 (EC) の細胞間接着や血管構造の安定化に重要であり、ストレス刺激による EC の機能変化に miR10b が関与していることを示唆できた。(中原正子、長嶺憲太郎ら)
7	(特許) 核酸の分離方法及び増幅方法	共	2024 年 3 月	特許第 7446576 号	核酸を含む試料から簡便に核酸を分離することができる方法、及び試料中の核酸を簡便に増幅することができる方法を開発した。 (長嶺憲太郎、中山章文、古川 彰)
8	(学術論文) RasGRP2 attenuates oxygen deprivation-induced autophagy in vascular endothelial cells	共	2023 年 11 月	Biol. Pharm. Bull., 46 pp. 1512-1516	RasGRP2 が酸素欠乏によるオートファジーを抑制することで、内皮機能障害に対して保護的な役割を果たしている可能性を見出した。 (宮崎翔平, 瀧野純一, 長嶺憲太郎, 堀 隆光)
9	(学術論文) Genetic detection of oral bacteria using tablet medium 《筆頭論文》	共	2023 年 1 月	J. Jap. Soc. Clin. Microbiol. 33, 25-29	タブレット型に成形した固形培地と唾液をマイクロチューブに入れ培養した。その後、唾液を直接 LAMP 反応液に添加し、ミュータンス菌を検出した。 (長嶺憲太郎, 木村留美, 北川雅恵)
10	(学術論文) Effect of Lactobacillus rhamnosus L8020 tablet on the number of cnm positive Streptococcus mutans	共	2023 年 1 月	日本口腔検査学会雑誌, 15, 9-13	健康者 81 名のうち、cnm 遺伝子陽性を認めた 17 名に対して、L. rhamnosus L8020 のタブレットを摂取させた結果、いずれも有意に菌数は低下した。 (北川雅恵、田地 豪、長嶺憲太郎、二川浩樹)
11	(特許出願) 2 種以上の菌の培養方法及び検出方法	単	2022 年 4 月	特願 2022-065878	液体試料中に存在する目的とする複数種の菌を一括して増殖させる培養方法、および、一括して検出する方法に関するものである。 (長嶺憲太郎)
12	(著書) LAMP 法を用いた口腔内細菌の簡便・迅速診断法の開発	単	2021 年 12 月	化学工業12月号 pp. 814-819	新規細菌培養法と LAMP 法を組み合わせた cnm 遺伝子および fimA 遺伝子の簡易検出法とそれを用いた臨床での結果について述べた。 (長嶺憲太郎)
13	(学術論文) Selective and easy detection of the Porphyromonas gingivalis fimA type II and IV genes by loop-mediated isothermal amplification	共	2021 年 4 月	Journal of Microbiol. Methods, 185, 106228	歯周病の原因菌であるジンジバリス菌の中で fimA 遺伝子タイプ II と IV を発現している菌を検出する LAMP 用プライマーを設計し、その評価を行った。 (北川雅恵, 長嶺憲太郎ら)